

発行

財団法人 日本ユニセフ協会 学校事業部
〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス TEL:03-5789-2014 FAX:03-5789-2034 Email:se-jcu@unicef.or.jp
ホームページ <http://www.unicef.or.jp> 募金口座◎郵便振替・00190-5-31000・(財)日本ユニセフ協会

使ってみよう

ユニセフ
ビデオ

「ユニセフと地球のともだち」

内容のご紹介 ^{プラス} ポイント解説

「ユニセフと地球のともだち」は、開発途上国の子どもたちのようすやユニセフの活動、歴史など、ユニセフの概要を理解できる人気NO.1のビデオです。

14分で、使いやすい長さです。ビデオの中のポイントになる部分について解説をご紹介します。ぜひ、ビデオを使っていただき、解説を活用してください。



安全な水に関すること

生活にかかせない水。今年3月に関西で開催された「世界水フォーラム」では、水に関するさまざまな問題が話し合われました。安全な水を家の近くで手に入れられないことは、子どもたちの生活に大きな影響を及ぼします。

■ 水くみをするツラサちゃん

ネパールに住む10歳のツラサちゃんは、いっぱい水をいれると15キロにもなる水がめを、1時間以上かけて川から家まで運ぶのが日課でした。開発途上国では、水くみは女の子や女性の仕

事と考えられることが多いのですが、非常にきつい仕事です。重い水がめを長時間運ぶのは子どもの身体の発育に良くない上に、川や沼の水質は安全でないため、子どもの健康によくありません。ユニセフとネパール政府がツラサちゃんの家がある村に井戸をつくり、長時間の水くみをしなくてもすむようになったので、ツラサちゃんは学校に通うことができるようになりました。



げりに関すること

げりによる脱水症状は子どもが命を失う大きな原因のひとつで、現在も、毎年約200万人の5歳未満の子どもが命が失われています。

■ げりに苦しむ子どもたち

バングラデシュの首都、ダッカにある国際下痢研究所の付属病院では、毎日、病室に入りきれないほど多くの子どもたちが重いげりで治療を受けています。この病院は貧しくても治療を受けることができるからです。1966年、げりに苦しむ人のために「経口補水療法 (ORT)」がこの病院で確立されました。この方法で、毎年約100万人の子どもたちがげりによる脱水症状から救われています。

予防接種に関すること

予防接種は子どもの健康を守るために非常に大切です。現在、世界の約80%の子どもが6種類の予防接種を受けられるようになりましたが、事業を始めた1974年頃はわずか5%程度で、多くの子どもが防ぐことができる病気で命を失っていました。

■ らくだの背に冷蔵ボックスを積んでワクチンを運ぶ

予防接種で使用するワクチンは、低温で保存しなくてはなりません。地域によりさまざまな方法で保冷していますが、例えば、とても暑い砂漠の地域では、らくだの背中に積んだ太陽光発電パネルを使ったポータブル冷蔵ボックスの中にワクチンを入れて予防接種を行う地域までワクチンを大切に届けています。



児童労働から子どもを守ること

世界では約2億5千万人の子どもが、朝から晩まで、安い賃金で、十分な食事もできず、学校にも通えず、遊ぶこともできず、危険な仕事をさせられています。

■ たばこを巻くサリタさん



サリタさんは、インドのたばこ工場です。毎日、朝から晩まで12時間働き、2000本のたばこを巻きますが、賃金は1日にたったの55円です。値段の安い製品のかげには子どもの労働がひそんでいることが多いです。ビデオで出てくる以外にもさまざまな職種で子どもたちが働いています。

紛争に巻き込まれた子どもを守ること



兵士が戦う昔の戦争と違い、現代の紛争では被災する約80%は一般の人びとで、その大半が女性や子どもです。ユニセフは、心も身体もきびしい状況におかれている子どもを守るためのさまざまな活動を行っています。また、戦場には約30万人の子どもの兵士がいます。ユニセフは子どもを兵士にしないよう働きかけ、解放された子どもの心のケアなどを行っています。

■ 両親を失ったサンジン君

サンジン君は目の前の爆発でお父さんとお母さんを失いました。ショックのあまり、どんなに大きな精神的影響を受けたのか、サンジン君の表情から理解できます。

■ 人形劇を見て笑顔をとりのどした子どもたち

人形劇に歓声を上げる元気な子どもたちは、紛争のために親やきょうだいを目の前で殺されたり、自分も殺されそうな恐ろしい目にあっています。ショックのあまり、話す事も、食べる事も、遊ぶこともできなくなり、心を閉ざしていました。子どもたちは保護センターのあたたかい雰囲気の中で過ごし、カウンセリングやリハビリテーションを受けて、少しずつ心をひらいて、普通の子どものらしい生活を取り戻してきました。子どもたちの笑顔は長い時間をかけて悲しみやつらい体験を乗り越え、やっと戻ってきたものなのです。



■ タクシーの助手をしているイドリス君

バングラデシュの12歳の少年イドリス君は以前、縫製工場で働いていましたが、工場が児童労働を禁止したため解雇されてしまい、より危険なタクシーの助手をせざるをえなくなりました。お父さんは身体が弱く働くことができません。お母さんは家を出してしまいました。イドリス君は生活を支えるために働くなくてはなりません。ユニセフはILO(国際労働機関)やバングラデシュ最大のNGO「バングラデシュ農村振興委員会(BRAC-Bangladesh Rural Advancement Committee)」と協力して、働く子どもが学べる学校づくりを行いました。正規の小学校ではありませんが、働く子どもたちの都合に合わせて、1日3時間授業を行います。学費は無料、学用品も提供されます。イドリス君はその学校に通っているのです。学校では歌、踊りを授業に取り入れ、楽しく学べるように工夫しています。貧しさのために小学校に通えない子どもたちが基礎教育を受けられるようにしている一例です。



自分の未来を夢みること

子どもはみんな学校に通い、自分の夢に向かって生きていきたいと願っています。それは、すべての子どもたちが持つ権利なのです。

■ 夢を語るシェリーちゃん

10歳のシェリーちゃんは、路上で花を売っているストリートチルドレンでした。ビデオの中で、児童労働のシーンに出てきています。お母さんは花屋で働いていますが、その収入だけでは生活できず、シェリーちゃんも働いていたのです。学校に通えるようになり、「お医者さんになって、たくさんの人を助けたいの」と、シェリーちゃんは自分の将来の夢を語っています。学校で学び喜びがはにかんだ笑顔からにじみ出ています。

すべての子どもが自分の可能性を十分に発揮できるように、ユニセフはさまざまな活動を行っています。



参考資料のご紹介

- ビデオ「ユニセフと地球のともだち」
お申し込みは ユニセフライブラリー ☎03-5471-7091
- ユニセフ視聴覚ライブラリーカタログのお申し込み
・学校事業部 ☎03-5789-2014
・ホームページからのお申し込み
[<http://www.unicef.or.jp/siryu/seikyuu.htm>]
- 春の学校配布資料 (5月末までに各学校へ発送予定です)
・「2003ユニセフ活動の手引き (活動の事例集を中にはさみこんでいます)」
・「ユニセフで学ぶ『総合的な学習の時間』」
いずれも (財)日本ユニセフ協会発行
お問い合わせは学校事業部へ ☎03-5789-2014

授業にいかそう 「ユニセフと地球のともだち」

- ビデオを見たり、解説を読んで、世界の子どもたちやユニセフの活動について調べてみましょう。
- 自分と世界の子どもたちとの違いを考え、発表してみましょう。
- 自分たちにできることを考えて実行してみましょう。

今秋、全国の学校にお送りするユニセフ募金活動資料には、「ユニセフと地球のともだち」ビデオのCD-ROMを同封する予定です。